

わたしの お気に入りの 入り

ICHIDA Ai
市田愛

Western All Stars
ウエスタンオールスターズ

OSAWA Masayo
大澤昌代

SONE Kei
曽根佳

HASHIMOTO Taku
橋本卓

YAMAGUCHI Keitaro
山口慧太郎

My Favorite Things

2025.8.10 (日) → 8.31 (日)

11:00 - 18:30 入場無料

休廊日：水曜日

会場：はあと・フレンズ・ストア2階ギャラリー

主催：一般社団法人ヴァリアスコネクションズ

企画：成実憲一（一般社団法人ヴァリアスコネクションズ理事長）

協力：art space co-jin（きょうと障害者文化芸術推進機構）、社会福祉法人京都ワークハウス、特定非営利活動法人蓬莱の家

わたしのお気に入り / My Favorite Things

本展では、6組の作家がひそかに、あるいは他者と共有しながら大切にしている「お気に入り」のモノやコトを「表現」という枠組みを通して紹介します。本展のタイトル『わたしのお気に入り / My Favorite Things』は、映画「サウンド・オブ・ミュージック」の劇中で、修道院から家庭教師として派遣された主人公が、夜中に雷を怖がる子どもたちに対して、たくさんのお気に入りのものについて語り、不安や恐れを取り除くというシーンで歌われた曲から引用しています。このことをきっかけに子どもたちが主人公と心を通わせた重要な場面です。世界中で対立と分断が深まり、先行きが不透明な時代に私たちは生きています。身近な社会でも、他者への不寛容や誹謗中傷があふれています。また、私たちは「生ある者は必ず死あり」という共通の恐れを抱いて生きています。しかし、不安や恐れではなく、好きなことに眼差しを向けることは、誰にとっても大切な生きる術です。本展の作家たちは、どのようなお気に入りのものに眼差しを向けているのでしょうか。その多様で独自の視点に触れることは、今を生きる私たちに、きっと多くの示唆や希望を与えてくれることでしょう。

マイ・フェイバリット・シングス



《愛》2025

市田愛 ICHIDA Ai

1981年京都市生まれ。幼少の頃から、雑誌やノートなどに人の顔や文字のような記号を描き続ける。みるみるうちに増えていき、それらはまるで市田の分身たちのように、あるいは、生きている痕跡の集積のようにも見える。何かに描き始めると、描くことや描かれるものへ執着するが、やがてその中の1枚を書き終えたと、破ったり、くしゃくしゃに丸めたりする。この一連の行為には、生と死が織りなすライフサイクルを感じさせる。



《ホウライエキノアタリ》2023

ウエスタンオールスターズ Western All Stars

2021年に就労継続支援B型事業所「蓬萊の家」で結成。イラストや色彩を融合したダンボールオルゴール作品を共同制作する。2022年から花辺(京都)で毎年開催する作品展のほか、滋賀や奈良のイベントに出展。また、手作りのダンボールキットを使ったワークショップを京都や滋賀で実施している。ハンドルを回すと、描かれたモチーフがオルゴールの音色とともに動き出し、ファンタジーの世界が広がる。モチーフは、蓬萊の家周辺の自然や建物などが多い。



《まじわるカタチ》2025

大澤昌代 OSAWA Masayo

1976年京都市生まれ。2020年「きょうと障害者文化芸術推進機構」企画のパナー展示に選出され、日図デザイン博物館ほか京都府内各所で巡回展示される。2024年「壁をのぞむ眼差し」(ギャラリーヘプタゴン | 京都)に出展。大澤は、カメラを通して、風景の中の線や形に眼差しを向ける。直線、曲線、円、三角形、四角形……、それらは無秩序に、あるいは秩序だてて構成されているが、大澤が切り取ると、まるで自身の手によって、その世界を構築したかのように見える。

曽根佳 SONE Kei

1985年京都市生まれ。2001年、京都市立白河養護学校(現・白河総合支援学校)で陶芸を始める。2005年から現在まで陶芸工房由で竹内理恵に師事。2019年、まんまん堂(京都)で初個展を開催。制作するものは、オブジェ、食器、雑貨など多岐にわたるが、本展では「食」をテーマにした陶芸作品を出展。その作品は、食べ物への愛情に満ちており、写真とイメージのはざまが広がる。



《Keiランチ》2024

橋本卓 HASHIMOTO Taku

1993年京都市生まれ。何らかの対象物を描くのではなく、鉛筆で輪郭線を描いてから、クーピーや色鉛筆で色を塗っていく。ミュージシャンが即興で音を奏でるように、その画面には線・色・形がリズムカルに構成されていく。橋本は、絵を描くことを「お勉強する」と言うそうだ。英語の“study(勉強)”の語源は、ラテン語の“studium(熱心・情熱)”である。橋本は今も毎週自宅での「お勉強」を続けている。もう15年になるという。



《いろいろ》制作年不明



《手がかり》2020

山口慧太郎

YAMAGUCHI Keitaro

2000年京都市生まれ。2021年「ゆびさきのこい」、2024年「Co-pic」(art space co-jin | 京都)に出展。2024年、写真集「Outsider Photography in Japan」(編: 都築響一)に掲載。レンズを左手で覆うのがお気に入りの撮影スタイル。レンズは外の世界を見るための窓ではなく、手をかける突起物。そこから写し出された風景は、太陽の光を透かして見える生命の色模様であり、自分の存在を示すセルフポートレートといえる。

■関連イベント

ギャラリー・トーク

日時: 8月24日(日) 13:00 - 14:30

会場: はあと・フレンズ・ストア

定員: 10名(先着順)

参加費: 無料

申込: 展覧会公式サイトより申込み

展覧会公式サイト

<https://sites.google.com/view/m-f-t/home>



はあと・フレンズ・ストア

〒604-8042 京都市中京区新京極通四条上ル中中之町 565-15

TEL. 075-221-8033

FAX. 075-221-8118

WEB. <https://kyoto-heartfriends.com/>



【お問い合わせ】一般社団法人ヴァリアスコネクションズ

〒606-8411 京都市左京区浄土寺東田町67番地1 ジュンビル106号室

TEL. 075-741-8517 FAX. 075-741-8748

MAIL. info@various-c.com WEB. <https://www.various-c.com/>

交通案内

【市バス】「四条河原町」下車 徒歩約5分

【阪急京都線】「河原町駅」下車 9番出口より徒歩約3分

【京阪本線】「祇園四条駅」下車 徒歩約6分